特25
573

遍造花生殖論

佛國マイヨー氏演述
日本本多省三筆記

明治十二年二月出版

東京圖書館藏

通俗造化生殖論

佛國大醫　マイエー氏　演述
日本　本多省三　筆記

○第一條　生殖総論

万物の元始ハ神の造らせ玉ふ處よして人間の知り得べきとよあらざれども凡ろ地球の上よ産り出るものハ動物植物の差別なく総て生あるものゝ本源よ遡ぼれバ大抵肉眼をもて見難きほどの細微なる顆よ創まり漸次よ成熟して動物ハ卵となり植物ハ種子或ひハ果實となりて夫より種々よ變化なし各々ろの種顯よ隨ひて樣々の形狀を現はし

茲に始めて特有の性質を得るものなり扨て此の細微なる
顆を育て宿す所を卵巣と名づく草木にては花瓣と花蕚と
の間にある膨れたる部分即ち是れなり故に何の花に限ら
ず截斷りて細かに撿査すれば花莖に接きたる所に夥多の
微かき顆あるを見出だすべし是ぞ花の散りたるのち花臺
に結ぶ種子又は果實となるものと知るべし植物は右の如
くなれども動物は大いに樣異りて其の躰格一層精密なれ
ば種類により樣々の違ひありて一概には說き難けれども
畢竟躰の中に卵巣のあらぬもの無ければ此處に生ずる微
かき顆の追々に成熟して卵種となり夫より胚胎となりて

遂には母の体の外に生れ出ること譬へば果實の種子の熟
するのち地に落ちて雨露の培養を受け更らに萌出ると異
なることなし尙ほ其手近き證據は子を持てる魚を料理して
見るべし其腹中には必らず双つ並びたる嚢ありて此嚢の
中には柔軟かき卵顆の一ばいに盈ち居るものなり此嚢は
即ち右にみへる卵巣にて魚類は大かた此の如くなれども
鳥類はこれと異なりて其形葡萄實の如し又た獸類人類の
卵巣は体狀恰も巴旦杏の如く楕圓形の腺をなせり總て動
物の卵巣は種類によりて形狀の均しからざる斯の如し扨
又た卵巣は其他の躰內の機關と同じく動靜両脈に連なり

血液を吸こみて己れの滋養を調へ尚は血液の一分を殘し置きて卵種を化成りこれを養ふ靈能あるものなれども卵種を化して胚胎となそとい卵巢のみの手際よてい往き難く即ち精液（動物なれバ）と藥粉（植物なれば）との內部よ生ぜる精養の本源（原語を「プランシップ、フェコンダン」と云ふ）と名づけ靈虫の來りて卵種と感和そる上ならでは決して生殖の基を啓くと能はざるなり又た此の精液と藥粉とは血液れよび「セーブ」（植物の氣孔を循環そる液汁の原名よて恰かも動物の血液と同ドき功能ある養汁なり（楕圓形をなせ一個の機關よ流れ入り其處よて分

折變化の工を遂げて始て成るものよして其の精液を釀る機關を製精腺（即ち獸類の睾丸よて又た外腎とも云ふ）と名づけ藥粉を造る機關を藥蠱（エムミーヌ）と名づく但し製精腺は其位置と形狀とよ依りて性質の異ひありと知るべし

右よ說く所をもて凡ろ万物の生殖そるい卵巢よて卵種を造ると製精腺よて靈虫を生ぜると此の兩種の妙能よ因るとなるを知り得べし扨て其の兩腺（卵巢製精腺）い決して一体よ二つながら全備そるものよあらざれバ其一つを持てるもの二個寄り合ふて後よ生殖の方を得べし爰よ於てや男女夫婦の道はトめて起る即ち卵巢を持てるは女よ

して製精腺を有てるハ男なり鳥類よハ雌雄と云ひ獣類よハ牝牡と云ふ

○第二條　植物の部

植物の雌雄ハたゞ花よつきて両性の生殖機關を別つべく卵巣も製精腺も皆な此中よりあり

植物の雌性生殖機關即ち卵巣ハ通常花の最も下の部分よあり此の卵巣と花瓣との間よ空洞なる莖ありて此を花莖（ピスチール）と云ふ花莖ハ其下端を卵巣よ接し上部ハ恰かも漏斗の如く廣かりて花瓣を保つ総て此の作用の精細きとハ下よ詳らかよ説分くべしと雖も此の花莖ハ藥蘘より落ち來る藥

紛を受け納れて卵巣よ輸り種子と感和せしむる職務なりと知るべし

植物の雄性生殖機關ハ概ね花莖より群かり出る花鬚と名づけし細き莖の首項よありて其形ハ恰かも細少なる蘘の如し又た其外面よある黄なる粉ハ右よ云へる藥粉よて此内よ精養の本原（動物なれバ靈虫）を有てるなり

抑も植物ハ人類と異よして雌雄両性の生殖器ハ必らずしも其主を別よそるの定則あるよあらざれバ一株よて両性の生殖器を全く有てるあり之を「モノイッック」種（甲）と名づく或ハ一花よして雌雄の機能を兼るあり之を「エルマフ

ロツツト」種（乙）と名づく又た雌雄の両性全く株を異よそるあり之を「ヂチイツツ」種（丙）と名づく甲の種類ハ毎年莖の枯れ失せて僅かよ根を存そ草の類および植蟲或ハ脊節なき動物のみよ限るなり乙の種類ハ植物およ動物學よて最も下等の部類よ属せる動物よ多くありとそ丙の種類ハ通常の獸類人類よのみ属して却て植物よハ甚稀なり

○第三條　魚の部

魚の雌性生殖機關○前章よ説きたる如く雌魚の腹を割きてこれを檢査そる時ハ必らず一双の蠶を發見そべし此裏よは一面よ細胞休充滿してろの端尾よ群がり纏へる微かき顆ハ即ち魚の卵種となるものなり扨てこの卵種漸次よ成熟して全き卵となる時ハ射卵管と名づくる卵巢の肉管より躰外よ射き出さるゝなり

魚の雄性生殖機關○雄魚の腹を截ち割りて内部を視れバ雌魚よ等しき一双の蠶を檢出そべし是を世よ白子と云ひて無學の人ハ胚胎の熟せざるものとそれぞも大いなる誤りよて是ぞ精養の本原（靈虫）を此處よて育つる魚の製精腺即ち外腎なり扨又た魚の精液ハこの製精腺より「ミユラフェール」と云へる管よ走り「クロアーグ」（即ち魚の精汁を貯へ置く精囊なり）を經て外面よ迸しり出ると知るべし

○第四條　爬行物の部

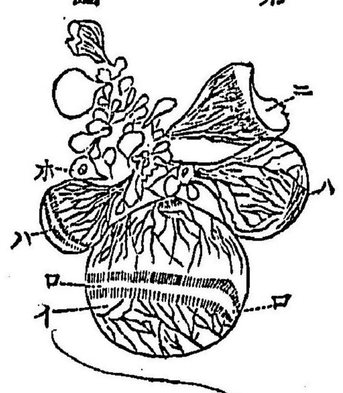
「パクトリシアン」族の爬行物（即ち蟇の類）の生殖機關ハ恰カも魚類と異なるとなし「オフィシアン」族（蛇の類）及び「シェロコアン」族（龜の類）の生殖機關ハ最もよく鳥類よ似たりと云ふべし

○第五條　鳥の部

鳥類の卵巢ハ單隻よーて脊節の前部よありろの形狀ハ恰カも葡萄實の如く數多の顆つぶ〳〵と群がり附き居れども卵種ハ左の第一圖の如く順序を追ふた下部より次第よ成熟す又たろの外面よ密と粘きたる黃色の微かき粉ハ後よ

卵の蛋黃となるべき分子にして此の卵巢の全圖を繞ふ膜ハ「ブビテリユス」膜と云ふものなり

第一圖

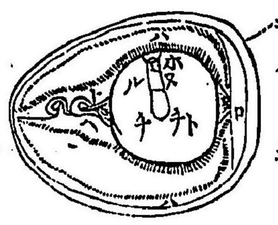


（イ）ハ卵種の充分に成熟ーたる体
（ロ）ハ卵種胞の破裂せんとそる兆
し（ハ）ハ未だ充分に熟せざる卵種
（ニ）ハ卵種胞既に破裂して空虛と
なりー形（ホ）ハ極めて未熟なる卵種の外面よ細かき疣ある有樣なり

扨てこゝよ黃色粉の蛋黃ハ云はんに最初に此分子ハ漸次に卵巢の膜を破りて「オブビ

ジユット」管（前に見ゆ）に進み内部を經歷る際りに靈虫と出會ふ時ハ忽ち「アルビミーヌ」の分子と和一化して純全なる蛋黄となりて固き殻を被ぶり始めて卵と云ふ不思議なる体組作動ある一物を造り出そこれらの間に原種（鳥の萌芽）もまた發生ーて次弟に成長そ總て此事の委ーき下條に讓り今遡ぼりて鳥卵（鷄の卵につきて說明そべーー）の体組形狀に說き及ぼそべーされど此等の話說ハ普く人の知る處なれバ別に圖を揭げて說き明そまでもなーと云ふ者もわらんが決ーて然らず此の第二圖をよく會得そる時ハ下條の話說を讀むにあたりて其解を得るの早きと實に疑がひなきものと云ふべし

第二圖



（イ）ハ卵殻（ロ、ニ）ハ風室（ハ）ハ漏き蛋白（ホ）ハ蛋白膜（ヘ）ハ濃き蛋白（ト）ハ螺旋帶（チ）ハ蛋黄（リ）ハ原種點（ヌ）ハ蛋黄溝（ル）ハ「シカトリキウル」なり

凡て鳥の卵（鷄に付て云ふ）ハ蛋黄と蛋白即ち「アルビミーヌ」及び卵殻とにて成る扨てその中心にある蛋黄（チ）ハ最初に「ブビトリーヌ」と云へる包膜を被ふり又た其外面を「シヤラジフエトル」と云ふ膜にて包み尙ほ固有の住置

を亂さざる爲め頭尾より（ト、ト）の如き靱帶をもて螺旋の如くして卵殻を兩端に結び着く又た蛋白ハ蛋白膜（ホ）を界として濃と薄との兩種に分つ故に卵殻を破る時に忽ち流れ出て四方に散ると油の如きものと蛋黄に粘きて容易に流れぬものとの兩種あるよ發見だそべし

蛋白と卵殻との間に室氣膜と云へる薄膜二枚ありて一枚ハ蛋白を包み一枚ハ卵殻の内面にまとひ附けり然るに卵の孚化るべき期にいたれば兩膜忽ち分離して其の間に空氣室（ロ）と云へる空隙を生ぜ卵殻の質ハ「カルケール」塩にして全体に數多の氣孔あり以

て内部に空氣を流通そるの便りをなそ扨て新鮮き卵にい蛋黄の中心に白色の斑點（り）あり蒸卵を割りて檢査それば明かに其の在處を見出そべし然るに此斑點い卵の温熟を得るに隨ひ漸やく轉ドて蛋黄溝（ヌ）にいたり又た沸騰して蛋白膜（ホ）に走り竟には蛋黄の外面に突出て小疣（ル）となる此の小疣につきては尚ほ弁そべきと多しと雖も本條の主旨とそる處にあらざるをもて姑らく下文（原種發生論）に讓るべし

鳥の雄性生殖機關○雄鳥にい脊節の兩脇に白く艶やかなる楕圓体のもの一双あり原語に之を「ルギオン」と云ふ蓋し

鳥の睾精腺に外ならざる扨てこの腺ハ肉眼にて見出し難き
ほどの纖緯いくらとも無く重疊りて体を成しその緯端の
餘りハ一緒に攅りて一條の輸精管となり此處にて醱り出
せし精液を此管より肚腹に輸りて「クロアーク」（精嚢）の
内に貯へ時を待て陰竅の膣孔より体外に泄し出すなり○
睾精腺にて絶えず醸造する精液ハ体外に泄らす前に一個
の胞体か若くハ輸精管の廣がりたる部分に貯へ置くを通
例とす故にこの部を鳥の精嚢と名づくされど鳥類ハ素より
ヶ人類と異り諸部の機關も至て簡畧なるものなれバ精液
の外にもなほ胆、尿の兩汁を此嚢に蓄へ以て胆嚢、膀胱の所
キモブクロセウヘンブクロ

作をも兼任せしむるものと云へり

○第六條　獸の部

博物學につきて論ぜればＦ凡て乳ある動物を獸類と云ふ（
故に持乳動物と譯そ）されバ人間の尊きより猫、鼠の卑き
にいたるまで概て皆な獸類と謂つべく其の諸部の機關樣
に生殖機關の如きも大小精粗の差違にもあれ形狀作用と
も天壤の異別あると無しされど其の最も精密にして造化
の靈妙を極めたるハ人間の生殖機關に並ぶものなきをも
て本條に述る所ろもまた人間の機關を本旨とし餘いたい
之を證明そるの便りとなすに供ふるのみ

女性の生殖機關〇女子の生殖機關ハ一双の卵巢、二條の卵輸管（卵輸管一名を喇叭管とも云ふ是れ其形の喇叭によく似たるを以てなりされど近來ハ原名の卵輸管を稱ふる者少なくして別名を云ふ者多けれバ本書もこれよ隨ひ以下直ちに喇叭管と稱そ）幷に子宮と云へる肉囊（此内に卵を落し入る）及び筋張りたる肉管とに因りて成るものなり扨てこの筋張りたる肉管ハ体の外より内部の機關に達そる溝路なれバ名づけて陰溝と云ふ今生殖の事業をもて耕作に譬へて謂はんに卵巢の分子（卵種）ハ即ち穀物の種にして子宮ハ即ち田地なり故に最上の良種あるも田地

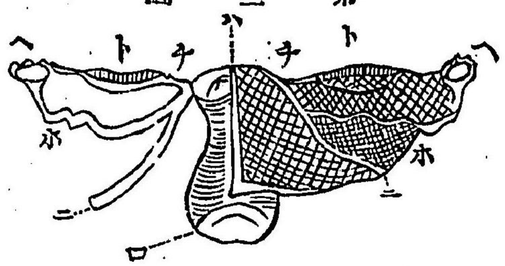
荒廢て種子を養ひ育つべき元素を保有たざれバ時期いたるとも種子に精力なくして芽を出だし難く遂にハ土中に腐敗れて豐稔の収納をなそ能ハざれをも一度養汁（精液）をもて田地（子宮）を潤はし種子（卵種）に養分を與ふる時ハ種子ハ忽ち精力を得て漸次に成熟し化して胚胎となり以て子孫繁殖の基を啓くべし理論斯くの如しと雖も養汁（精液）にも良否あり田地（子宮）にも荒沃あり其他種々の障碍りありて兩性交合の度ごとに懷妊そる能ハざらしむ是等の事理ハ下條に審明かなれバ玆に論せそ以下ハ本條の趣意とそる機關の形狀及び其の作動のあ

らましを說出そべし

人間の卵巢ハ他の動物に比ふれバ甚だ少さし其形体ハ矢張り數多の微かき顆を中に盈てたる腺にして他の動物と聊か異ならず其の外面の形狀ハ大畧男子の睾丸に似て大さは鳩の卵又ハ巴旦杏はどなるを常とし肚腹の兩脇尻骨盤の兩側に並び上端は靭帶をもて子宮の後部に絡なり下端ハ喇叭管に接き其色は赤青白なり是を截斷りて內部を見れバ右に云へる細胞体充滿すこの細胞成熟の期にいたれバ破裂して卵種を生み喇叭管より子宮に輸る倘ほ其形は左の第三圖を見合せべし○凡て卵巢は人の產るゝ始め

より既に其の体中に備れるものにて月を累ね年を經るに隨ひ漸次に成長し內部の微顆の化して卵種となるものなり

第三圖



（ロ）ハ子宮口（ハ）ハ子宮（ニ）ハ靭帶（ホ）ハ喇叭管（ヘ）ハ卵巢（チ）ハ卵巢帶（ト）ハ喇叭管ハ其質鳥魚の卵輸管と云へる肉管に異なると無く形狀ハ恰かも護謨の胴紐の如く下端ハ子宮と續き上端ハ蜿然として伸縮自在なるものなり扨て其の子宮に近き部分

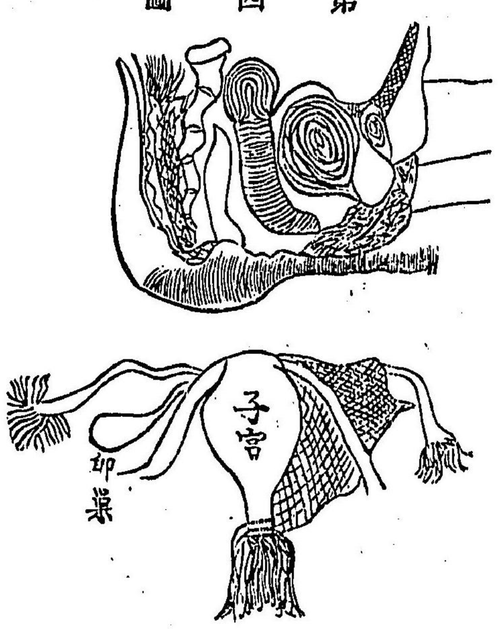
い臍孔細く小さなれど卵巣に接きたる端口い大に廣く全体い漏斗の形をなして以て卵巣より落ち來る熟卵を受け納め臍孔を轉ばし行きて子宮へ輸ろ便利をなす

子宮は兩部の喇叭管の聯合する結び目にある肉囊にて鳥魚の類には絶て無き機關なり右にも云へる如く鳥魚の類は卵輸管（喇叭管に同ド）の聯合すると無く各自卵を搬びて或ひは直ちに体外に放ち或ひい一旦肚腹に落し入るゝものありと雖も其を育て上ぐべき子宮の如きものある を見ず○凡て獸類は兩部の喇叭管肚腹の内部にて聯合し以て子宮を造るゆゑに喇叭管の結び目のある位置により

て其形狀均しからず又た作動にも異別あり故に兩部の喇叭管の結び目の陰戸に近よりたる部分よあるものい子宮の奥行き果して淺く喇叭管の端口大きくして恰かも二個の圓錐体を對ひ合せし如くなるべし此の如きい斷て高等の種族（人間の如き）よ無き所なれど其の能力の盛んなると好く一回よ數個の胚胎を育つるよ足るものとす即ち犬、猫、兎、山羊の如し然るよ之と反りて卵輸管（喇叭管）の聯合陰戸よ隔たりたる所よ在るものい子宮の形必らず長圓体よて其の能力も唯一胎を養ふよのみ適當なりとす人間の子宮い總て此類よ属するものと知るべし

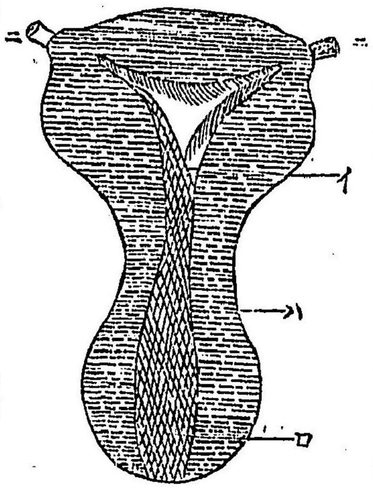
総て人間の子宮は尻骨の下角より附きゐの形狀ゐ恰かも短かき三角柱の前後を少しづゝ打ち平めたる如く底ゐ膀胱と直腸の中間よあり頸ゐ陰溝よ連なりて下よ垂る体質ゐ夥多の繊絆數限りなく重なりて肉嚢となれるものよて内面ゐ薄き膜をもて貼り詰め全体ゐ嚢よ彷彿たり又た全体よは血管細胞体充滿して動靜両腺と絡なり男女交合の折り女子の方に情滿れバ血液漲り來りて蠶を膨らし以て其の快美を助く又た女子懐妊それバ此處に血液を通ト て胚胎を養ふ○外面より子宮を覗へバ三孔の列びてゐるを見るべし此中第一、第二孔は其口狹く

第四圖



して纖かに毛筋を通すまでなれども内部は却て廣くして喇叭管と背向せに接くものなり第三孔ゐ即ち陰戸にして是より子宮に到るまでは灣り曲りたる管溝にして直徑は三「サンチメートル」より五「サンチメートル」より十二「サンチメートル」さは九「サンチメートル」即ち三寸餘より四寸餘なりとそ（第四、第五圖を參觀そべ

第五圖



（イ）ハ子宮腔

（ロ）ハ子宮溝即ち陰道

（ハ）ハ子宮口

（ニ）ハ喇叭口

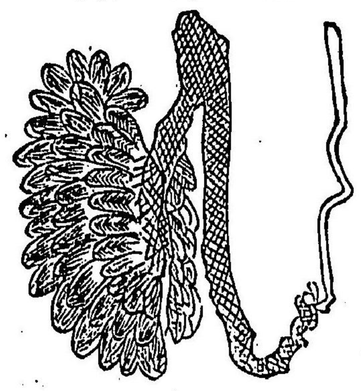
し）又た陰溝の內面を蔽ひたる薄膜ハ身の皮膚と同ド質なり○抑も子宮は心經質の一部にして不隨意機關に屬そるものなれバ其人の意の向ふ所に關はらずして己が儘の作動をなし唯心經の直轄を受く故に身体に燒鍼を當て麻藥劑を服そるも毫も子宮を感動せしむる能はさされバ麻藥の爲に正氣を失なひたるものゝ陰具を翫弄

べば必らず情を引起そものなりとゾ

男性の生殖機關○男子の生殖機關は鳥魚の類と異なると無く製精腺（睾丸）を始め輸精管、精囊（精液を貯へ置く肉囊）及び陰莖等にて成る凡て獸類の製精腺は恥骨（臍の下に在る骨）の下陰囊の內にあるを通例とそ然るに種類に依りては肚腹の內部に藏むるものあり或ひは牝牡交合の際り体外に押出だすものもありされど幼稚の間は大抵製精腺（睾丸）の位置定まらさして始めは肚腹の內に匿れ次第にろの可部に降り竟には全く肚腹を脫け出て兩足の間に垂るゝ肉囊の中に落ちろの中央に懸組るものと

す扨て製精腺（睾丸）の体質形狀を見れバ釀精管と云へる纖綽と細微なる血管と結綜ひ組重なりて二個の核子を造りたる上に白く艶やかなる薄膜を以て全体を包む其狀恰かも手鞠の如く又た絲膵と云へるものに似たり故に製精腺を截斷り冷氷に浸して振り搖かせば体素の纖綽自づから分離れて八百餘條の單綽を現はそべしこれを結び合して其長さを算れバ殆んど六百「メートル」（五丁半餘）にいたるべしとぞされど是等い皆な臆測の咄しよして親く實檢

第六圖



したるにもあらねバ一概よ信ど難しと雖も又た釀精管の最も微妙なる組織たるを知るよ足るべし尙は右の第六圖よ就て是等諸管の形狀を明らむべし○凡て釀精管の端尾よは一個或ひハ數個の微さき球あり接ふよ此處よて精液を釀り出し釀精管の隨孔を通ドて精靈よ輸るものなるべし然るよ此の微球を鳥魚爬行物等よつきて檢査ぜれバ尋常の顯微鏡よ照らして明らかよろの在處を見出し得べしと雖も獸類よれいていハ假令非常の精細なる顯微鏡といへども容易よ此物を發見そ能はぜ故よろのありやなしやを疑ひて言問ふものも尠なからぜ○扨て數條の釀精管ハ互

いに組重なりて二個の核子となれば左右一緒に集まりて一條の肉管となるこれを輸精管と云ふ此管漸次に肚腹に進み入りて直腸と膀胱との間にある精嚢と云へる肉嚢に連絡そこの嚢には二個の孔ありて一つに前の輸精管に續き一つに膀胱の蒂にある注射溝より陰莖の腕孔に連なれりこれに由て製精腺（睪丸）より釀り出す精液に一時精嚢に溜め置かるれども好機會を得れば忽ち尿道を經て体外に迸ばしり出そものなり故に交合の時男子の快美を覺ゆるに唯精嚢より精液を輸り出して尿道に達そるまでの瞬間時に發そる不測の作動に因るものと知るべし

陰莖に動物の種類によりて其の形狀同ドからぜ且つ格段に長短大小あるものなりされば鳥類の陰莖に細く小さくして麥粒に等しく大きなるも大抵椎の實の太さに過ぎず然るに獸類の陰莖は恰かも圓柱の如く大いなるに十六「サンチメートル」（五寸六七分）にいたり小なるも九「サンチメートル」（三寸一二分）より以下はあらぜ又た製精腺（睪丸）の大小も種類によりて差別あれども大概陰莖の大小に隨ひてそれに平均そるほどの大容にあるものなり

・⊙第七條　動物の精養（プランシップ）の本原（フエコンダン）（動物の靈虫）

人若し始めて靈虫の話說を聞かば必らぜ愕きて其談の不

稽らざるを咎むべしといへども好く其の本原より遡ぼりて熟考しなば竟よい造化不測の靈妙に感ドて覺ゑず手を腰よれくり扱もこの靈の中よいさる寶貨のありつるか現よ昔しより金と呼び玉と稱へて人間よ二つとなき重寶ぞと秘藏せしも理りなりけりなど坐ろに感悟そるにいたるべし抑も精蒼の本原（靈虫）と云ふものは製精腺（睾丸）にて釀り出そ精液の中に生活そる微少き動物にて（世に男女交合して女子隹境に入る時陰戸より夥多しく流れ出る粘液を精液なりと思へるは誤謬もまた太甚しと云ふべし素と此の粘液い臭氣を含み陰溝の裏面にある海

綿の如きものゝ内に生ド交合の時は陰溝の両側にある小孔より湧き出て其工合を好くそる爲に、のみ備へられしものなれば決して卵を培養ふなどの効能はなきものと知るべし）植物の類は藥粉の内にこれを有てり故に或る「ミクログラーフ」（顯微鏡）をもて肉眼に遮らざる物を專ら探索研究そる人）の説に藥粉の中に栖む微虫は激しく動きて常に休むとなしと云へり然るに此説を非なりとそる者もまた多けれぞも既に動物の精液中に激動そる微虫あるを以て考ふれば植物にも靈虫を有つと云ふ説の設め話にわらさるに似たり

精虫○精液の中に生活そる微虫にして其性質活潑とし絶ゑず飛まはりて互ひに爭ひ其同類を殺傷そ形体は恰かも蝌斗の如く頭豚れて大いにして尾は蜘の網よりも細し但し動物の種類或ひは老少强弱によりて此虫が頭尾の形狀少しく異なる所あれど到底右の蝌斗の形ちに外ならず上の第七圖は其發生より老大まいたるまでの形狀を現はしたるものなり○精虫は素と強く烈しき性質あれば精液を泄そのち

猶は數時間生存そる勢ひあり試みよ精虫を捕へて鹽味なき温湯の中よ放てば暫らくの活々として泳き巡るを見るべしと云ふ又た一説に據れば精虫の初め卵より生ド漸次に成長そるに隨ひ普通の虫類よ等しく幾回も全体の身の皮を蛻かふるものと云へり此説の最も信用そべき所あり其故は試みに顯微鏡をもて精液を照らそに微かき虫と小さき球とを發見そべし此小さき珠は精虫の卵なると更らに疑ひなければなり○凡て人間の精虫は男女交合して陰莖より子宮に精液を射き入るゝの後大抵二十四時間は生存ろものなれば此の折り偶々卵巢より卵種を落そか或

は其前より子宮に落ち留まり居る卵種あれバ忽ち感化して胚胎となる然るに虫類の中には雄の精虫雌の胎内に喰ひ入りてのち尚は數年間生存そるものあり蜜蜂の如き此類にして一巣に群がり居るもの總て女王と稱そる雌蜂の産む所なるが此の女王は生涯にたゝ一回の外交合せざして殆ど四年の間は日毎に若干の卵を産出そか故に其數一年に積りて六千有餘の多きにいたると有りと云へりされバ強壮なる女王を解剖して顕微鏡をもて其腹中を照し見なバ必らず數多の精虫を發見そと疑がひ無かるべし

○第八條　植物の精養の本原（植物の靈虫）

前に説きたる如く卵種を化して各種族の形体と性質を得せしむるハ其の卵種が精虫と感和して成就そる能はさるものなり故よ植物の果實を結ぶは藥粉（靈虫）ハ藥嚢の内に生ト其の包膜を漏れて外面に現ハれこゝを落ちて花莖と云へる漏斗の如き管より卵巣（花の下部にて膨れたる處）よ入り種子（卵種）と感和して造化不測の妙用を現ハし以て果實を造るなりされバ「エルマフロジット」に属そる植物（一花に雌雄両性の生殖器を備ふる種類）ハ卵種（種子）と靈虫（藥粉）の和融

容易なるべしと雖も「シナイックス」に属する植物（雌雄両性の生殖器各々株を異よそする種類）は雄株と雌株との間遥かに隔たり居る時は卵種と葉粉の感和するに空氣の流動（風）か若しくは雄花に遊ぶ蝶類の身に葉粉をつけて又た雌花に戯るゝ折りこれを落して卵巣に入るゝ如き媒妁あるにあらざれば此の種類の生殖機關は始終其用をなさゞるに依り千七百五十一年或る人の發明にて北日耳曼の都府來責より此の首府伯林に八十年來絶て果實を結びたると無き「ドッサユル」（菓樹の名）の雌樹ありしが當時歐洲の學術大いに進みて植物の生理に達する人の拵なからざるに依り千七百五十一年或る人の發明にて北日耳曼の都府來責より此樹の雄株の滿花したる一枝を持ち來り試みに其の葉粉を右の雌花に散布たるに効驗あやまたず其年はドめて果實を結びて枝もたはゝよ纍々たり其のち十八年を經て千七百六十九年よ再び雄花を持ち來り前の如くして試みしに此年もまた多くの果實を結べりとぞ○此例に因て風と蝶類とい雌雄両花の媒介たること明かなりされど穀草菓樹を問はず其の滿花の時偶々大風强雨ありて葉粉を吹き散らし或は洗ひ流そゝあれば卵巣また空しく孤房に老ひて遂に枯果てざるを得ず農家ハ收納を缺き雌花は配偶を失ひて

動植二物の悲歎を來たす唯々に騷客が落紅を惜むの憂ひに止まらざるなり○大凡水藻海草の類は開花の期いたれば水面に花包を出だし流水の來りてその蘂粉を洗ひ去るを防ぎ豫て此難に當るの准備をなす然るに花萼の綻びて蘂粉卵巣に落るの後再び水中に入りて果實を結ぶ種類あり「ブビペリーヌ」「子ミフエール」(共に水草の名)の如き是れなり凡て此の種類の花莖は細長くして螺旋れ以て伸縮の便りをなす又た前の如く開花の時水面に花包を出せしまゝにて果實を結び成熟なさしむる種族あり蓮河骨の如きは皆な此の類なりと知るべし

○第九條　動物の精液の功能

本條に論ずる主旨は既に前條植物につきて說き出せし事理と大抵類似りて別に異なる所あちず扨て動物の卵種は卵巣の内に生ド此處に成長して仮令全き成熟にいたるとも精液と和融するにあらざれば化して各種族の形体性質を受る能はず故に今試みに雌魚の腹中を搜りて成熟せし卵を取り水中に放ちてその孚化るを待つとも決して雛魚を見るの期あらざるべし然るに若し此の卵と同種類なる雄魚の精液を絞りてその卵にまぶし懸け是を清水に放つ時は日ならずして魚兒の水上に游ぎ戯るゝを見出すべし

○千七百八十年のころ佛國(フランス)に「スパランゾニー」なる僧ありしが年來の經驗によりて大いに精液の妙用を發明せり此僧初めに雌蚕の卵を取り雄蚕の精液と混ゆると無くして養ひ育てしよ遂に孚化らせしに腐れ失せぬるの後再び雌蚕の卵を得て此度は器械をもて雄蚕の精液を絞り右の卵に濯ぎかけしに造化の妙理落明くて忽ちに感和なし一日を經て幾頭の蚕兒になりたりと云ふ夫れより種々の動物につきて驗し査しのち遂に獸類の卵を取りて精液をまぶし形の如く施こせしに此も亦た同樣の結菓を得たりとぞ○大凡魚類の卵種は雌魚の腹中に成長し全く成熟するにいたれば自づと卵巢を離れ卵輸管を經て直ちに水中よ產れ出で砂石に着くもあり又い水藻に附くもあり或い雌魚の造りたる產巢の中に居るもあり此時雄魚ろの傍り近くを過ぎて精液を漏らし流水と混和し來りて右の卵種にまぶし掛るとあれば忽ち化して小魚となるされど鋸魚、鱶の類い雌雄交合して陰莖より直ちに精液を雌の胎內よ注ぎ入れ胎內の卵種はこれと和して孚化るをもて此屬の魚を胎生種族と云ひ其他の卵生種族と類そ分てり○鳥獸爬行物等の類い其の卵種充分に成熟せしのち卵巢を離れ卵輸管に落ち其の臍孔を轉りて獸類い子宮に入る又た靈虫は輸

精管より陰溝に進み夫より卵輸管の下部にいたり此處にて卵種と出會ふ時ハ忽ち惑和して爬行物の卵種ハ蛋白と包膜とを被ぶり鳥類の卵種ハ堅き卵殻を上に掩ふ然るに獣類の卵種ハたゝ薄膜をもて全体を包むのみにて蛋黄と外圍の包膜とハ此の折り未だ縺かにうの痕を見そのみ是れ通常獣類の卵種ハ他の動物に比べて最も小さなる所以なりと知るべし

○第十條　卵の孚化へるに温熱の要用なる所以を論ぜ

凡て魚類ハ其の卵種成熟して充分の卵となれバ忽ち母の体を離れ水中に在りて太陽の温熱を吸ひ込み少しく煖まれバ直に孚化へりて小魚となる爬行物もまた右に同ドくろの卵種成長して精養を全ふそれバ直ちに産れ出て草叢或ハ土砂の中に居り太陽の光線を受け其妙力によりて卵殻を破り己が持前の形体を現はそ然るに鳥類は是と少しく異なりて其卵を煖たむるに直接に太陽の光線よさらすことなく母鳥自からこれを抱きて己れの体熱を分ち與へ以て其の孚化を助く故よ雌鳥が卵を抱く間ハ其の肚腹の羽毛脱け落ちて卵に接る所ハ殆ど裸處となれり按ふに体熱の無益に費へんことを惜しむ母鳥の慈愛に出るなるべしされバ鞭近ハ器械を用ひて卵を煖ため孚化すことを發明せ

しより此術大いに世よ播布りて竟に今日にいたりては工業の一部となり盛んに各種の鳥卵を孚化して人民が日々の食用に供ふ天工人ろれ之を奪ふといこれらの事をや云ふなるべきろの器械の原名を「ノーブオリーズ」と云ふ蓋し雌鳥と云へる義なり

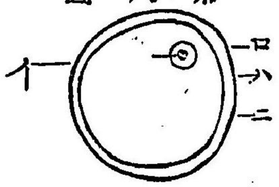
獣類の卵種い前條（第九條）の如くして精養を全ふそれバ卵輸管或は子宮に留まり些量の蛋黄と蛋白とを被ぶり軟かく弱き薄膜をもて全体を包む是を懐胎の元始とそ（鳥類の卵を抱き孚化を助くると同ト理合なりとす）扨て鳥類爬行物の類はろの卵種母の体を離れて充分なる卵となり温熱を受けて孚化そるの間い其の原種（即ち各種族となる本原なり）い蛋黄と蛋白をもて我が滋養となし生を保ち体格を完ふそるものなれども獣類の原種い是と反りて卵種の蛋黄蛋白とともに右に云へる如く些量なれバ懐胎の初期の数日が間を僅かに支へ得るのみにして兎も九月の長き月日を養なひ通さるべきものに非らざ故に卵種の全体に数限りなき小胞体を生ト懐妊の初めより漸次に成長して恰かも植物の微根よ似たる作用をなし日を経るまゝに子宮の内面なる血管細胞体と絡なりて卵種の蛋黄蛋白とも全く失なりし期にいたれバ母の体より血液を

吸ひ取り其うち必要なる原素をもて原種の滋養に備へ以てその生を保ち体格を完ふせしむるものと知るべし

○第十一條　卵種の發生より成熟にいたるまでの順序幷に變化を論ず

凡て獸類い生れながらに卵巢を備ふるものにて年月を累ねて身体の調整ふにいたれば卵巢もまた調整ひて内部の微顆化して卵種となる故に獸類の卵巢を斷切りて其の内部を見れバ中心よ數も知られぬ微かき顆の群がり集へるを見るべし此の微顆は身体の成長するに隨ひて一粒づゝ中心を離れ沸騰る如くして卵巢の外面にいたる時始めて卵種の名を下そ其の体容は種族よりて各々些づゝの差違あれども大抵一「ミリメートル」（三厘三毛）十分の一の直經あるものと云へり此時顯微鏡をもて照し見るに第八圖の如く蛋黄（ハ）透明体（ニ）及び原種胞（ロ）を發見そべし又た原種の表面よ黒點（イ）あり是を原種點と名づく蓋し胚胎の萌芽なり

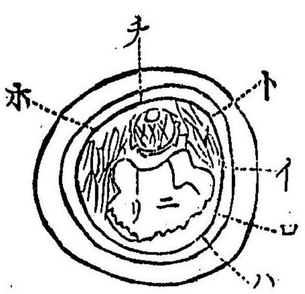
第八圖



○第十二條　卵種胞および其の作動を論ず

獸類の卵種は前條の如くして卵巢の中心よりうの外圍よいたるの途中不側の物質よ出會ひこれを身よ纏ふて漸や

く卵巣の外面よいたる頃は右の物質忽ち化して包膜となり卵種は第九圖の（ホ）の場所に匿るゝ時是を卵種胞と



第九圖

名づく此胞の内部にハ濃汁充ちて卵種を浸し以てこれを培養を扱て其の胞膜（イ）ハ非常の彈力を有ちて伸縮を自在にし又た濃汁膜（ロ）は絶ゑず黄色の濃き汁を醸り出そ是によりて卵種胞の濃汁次第よ増し（イ）（ロ）二個の包膜を膨脹まして竟には破裂せしむる時卵種ハ濃汁と共に流れ下そ是を月液と云ふ大抵卵種胞の破裂そる折り微しく痛みを起し暫らくして液汁を泄

し出すものなり是より先き喇叭管ハ次弟よ圓く曲りて卵巣に近寄り卵種胞破裂するる時にいたれバ其の端口を推廣げて卵種の落ち來るを待ち頓てこれを受け納そが否や歪管を震り搖かして卵種の再び退戻りするを防ぎ以て是を子宮に輸るこの時卵種ハまた喇叭管の隨孔を旋り轉りて体に着きたる濃汁を拭ひ去り新たに幾層の蛋白をもて外面を掩ひつゝ子宮に落ち下るなり是と同時に子宮にてハ俄かに脫落膜と云へる薄膜を造りて卵種を受け留め六七日の間ハ下に落さゞ此處よ持ち耐らゆれバそも此間に精虫の來りて卵種と感和そるとあらざれバ漸やくに破れ損ド

て竟に卵種と共に消て失なる

○第十三條　精虫の作動をよび其の妙用を論ぜ

既に陰溝よある精虫ハ卵種の喇叭管を經歷る途中か或ハ又た子宮に達したる後にても直に之と撞着ふ時ハ其頭に着きたる小疣の如き口をもて忽ち其の外面に吸ひ附き次第に内部に喰ひ入りて玆に造化不測の妙用を顯ハし以て生殖の基を啓く然るに若し卵種の成熟して子宮よ落ち入るに先だち男女交合そるとあれバ精虫は進みて子宮に入るも卵種に出會ハざるをもて倘ほ進みて喇叭管よ入り其の隨孔にて卵種と遇ふともあり或は又た卵種の卵巣を脫る折り精虫既よ喇叭管の管口にいたり卵種の管中よ落るを待たぜ飛でこれに喰ひ着くと無きにあらぜ（此の如き懐妊の危險なるハ下條に云ふべし）されど男女の交合に先だち卵種既に子宮に達りて精虫の來るを待つ如くなれバ両物の感和そると最も容易くして諸事順道の運びにいたるべし但し前の如く出會の場所異なるも精虫の靈能れよび作動の如きハ聊かも變るとなし○近來卵種胞の破裂そるより卵種の子宮に達る時間を種々に說をなして論辨そる者ありと雖も就れも各自の臆測に出るものなれバ一つとして取るに足らぜたゝ其時間を二十四時とするの說

は實驗上やゝ信據すべき所ある如きを以て此說を可とする者も亦た頗る多し然るに精虫の速力にいたりてゝ曾て其說をだも立るもの無けれバ其說よつきて可否を論ぜるもの有るべくもあらざ蓋し論者も說を立つるよ據るべき所なきを以ての故なるべしされど唯世人も論者も確く信ドて疑はざるものゝ精虫が卵種と感和して生殖の基を開くの一事あるのみ○茲に精虫が卵種と感和ーて後第一に著ドるき妙用の現はるゝは卵種の蛋黃忽ち割けて兩片となり又た分れて四片となり更らよ八片となり十六片となり始終偶數よ分裂ーて固有の形狀を失なひ次第よ化して

細粉となる事なり然るに卵種の精虫と出會はざるか或ゝ出會ふも精虫の身に傷つきて活潑ならざるか（前條にも說きたる如く精虫ゝ素と猛烈なる性質のものにして宛ら野蠻未開の人種の如く互よ殺傷を事として絕ゑず撲合ひ喰合ふが故よ夫が爲よ頭に傷つき尾を失なひ廢物となるも勘なからざ）又ゝ不測の變によりて互ひに感和せざると有れバ晩くとも月經より十五日目よゝ必らず透明体れよび脫落膜とも全く消失て痕跡なく無なるべし其消失する時の徵は自づと陰溝に濕氣を生ド時とーては粘汁を泄らすとあり是等は平生斯るとに意を注るご婦人がたの

能くご存ドのとなるべし

○第十四條　原種の發生を論ぜ

卵種既に精虫と感和すれバ蛋黄忽ち分れて細なる粉となり最初に其の中心に匿れ居たる原種ハ忽ち沸騰るが如く其周圍に飛出で外面に穴を穿つ精虫ハこの穴の開くを見て直ちにろこより内部に入り靈妙不思議の能力を顯はして蛋黄の細粉を次第ヨ攅め再び舊の一塊となし透明膜を以てこれを包む（是よんもの骨格となるとの説あれども未だ詳らかならざれば茲に論ぜず）故に爾後精虫の成果を説かぜ）此膜漸やく厚くなりて名を「シヨリヨン」（其作用ハ後條に審らかなり）と改む

るところにいたれバ其外面ヨ新たに一個の小胞体を出だす是を「ブラストデルム」胞（蓋し原種胞の別稱なり）と云ふ又た此胞の外面ヨ白き班點を生ぜ是を「ブラストデルム」點（蓋し原種點と同ト）と名づく即ち胚胎の萌芽なり（筆記者白す茲ヨ原種胞を「ブラストデルム」胞とし原種點を「ブラストデルム」點として同一物の名稱を前後ヨ異ヨし故さらに看者の目を誤まらぞる如く記載せしい全く原書ヨ斯く記るーあるヨ據れるものにて記者はたゞ一意ヨ原本の文意は更らなり用語をも譯ー誤らざらんとを、努むる誠忠ヨ

出たるものなれば閲讀の諸君子幸ひよ此旨を諒知し玉へ

ー斯の如く卵種の變化を起そは精虫と感和ー子宮に入りてのち六日より八日の間にあり是より卵種と云はずして人卵若ーくい卵と云ふ其の体容い直經殆ど一「ミリメートル」三分の一即ち我が一厘七毛弱に當る

「ブラストデルム」點い最初に眞圓体なれども次第に長く伸びて楕圓体となり夫より半面を膨脹まーて半球体となるされど玆にいたれば此點の中心に凹圓体をなそ是を「ノター、プリミチーブ」（最初の兆ー）と云ふ又た其凹底に白き纖維を出す是を「モエール、エピニユール」と名づく蓋し胚胎の

頭腦を造る原質なり右に說く所の變化い大抵卵種と精虫と感和せーより十日前後の間よおり

抑も「ブラストデルム」胞の形体い二枚の薄膜の互ひに連合して胞体をなそによりて成るものなり故よ「ブラストデルム」胞を分ちて外部の膜、内部の膜の兩部とそ〇以上二枚の膜は卵の成熟そるに隨ひ原種點の近傍より離れいとめ頓て全く分離し畢れば外部膜の外面の胚胎の甫初に原種の頭にあたりたる部分より皺を生ド次第にろの周圍に及ぼし一段々と重なり合ひて竟にい各部の皺の頭を寄せ集めて半球体となし原種の全体を包むにいたる是を「アンニヨチ

ック」囊と云ひ内部に液汁を充たして原種を浸そこの汁を
も「アンニョ」汁と云ふ○斯の如く外部の膜は原種を包みて
是れが外廓となり原種成長して胚胎となるの後は再び化
して筋脉骨節心經となり其餘の一分は「シロリロン」と合併
し又た他の一分ハ「アンニョナックン」囊となる

○第十五條　「オンビリカール」胞

「プラストデルム」胞の内部膜は其一面直ちに蛋黄に接きて
これを包み次第よ成熟して膨脹るに隨ひ化して「オンビリ
カール」胞となる是より先き原種ハ漸々よ反り曲りて竟よ
巾着の如き体となり「アンニョナックン」囊に液汁増してろの

包膜を押廣ぐるまゝよ原種いまそ〳〵反り曲りて其の首尾
わづかにして接くばかりにいたれバ「オンビリカール」胞の
一部を押狹め蛋黄と共よこれを含哺みて纔かよ是れが通
線を存そこの間隙を名づけて「オンビリカール」口と云ふ即
ち胚胎の臍口なり扨て又た「オンビリカール」胞（臍胞と譯
す）この時より両部に分れろの小さなる部分ハ原種に含
哺まれて是が腹中の諸部の機關となりろの大いなる部分
は腹外よありて原種を養ふこれらの順序ならびに作用に
いたりてハ條を累ねて精細しく下文に說き出すべし

○第十六條　血液の發造をよび其の循環そる所以を

論ず

總て獸類の懷胎そるは恰かも鳥類の卵を孚化さんとして
これを抱き以て己れの温熱を分け與ふるといさゝか異な
る所なしされバ母体の温熱体内に普及りろの蛋黄を溶解
して化して血液となし其後血液の一分變化して數多の細
胞体となり次第よ連合して竟にまた化して二條の血管と
なるこれを「オンフハロー」『メザンテリック』と名づくこの両
血管漸々に伸ひ行きて原種に達そるよいたれば忽ち合併
して一條となり更らに西洋の數字の八（8）の字の如く
屈れ曲りて原種の心臓となる是より新たに二條の血管を
生ト脊節よ沿ふて原種の身体の諸部よ血液を輸る是れ即
ち「アルテール」「アオル」なり又た其の枝管は諸方に蔓こり
て數多の細き管となり「オンビリカール」なり又た其の
内の外部よ出で「オンビリカール」ロ（臍口）より腹
がりて竟にまた一緒よ攅まり一個の胞となる是を「アラン
トイード」胞と云ひ原種の成長そるに隨ひ「シヨリヨン」膜と
合併し數多の細き管よりて子宮の血管と連なり以て原
種の血液と母体の血液とを調和して原種の生存を保ち成
長を助くる肝要の具となる○爰に又た蛋黄より造り出そ
血液れ「オンフハロー」『メザンテリック』の両管より「オンビ

リカール」ロ（臍口）を經て原種の腹内ゟ入り此處にて分れて骨節筋脈となり其外原種の身体各部を造り立るに要用なる元素を殘しろの餘い靜脈より「アラントイード」胞ゟ入り夫より「シヨリヨン」膜の細胞体ゟ流通して子宮の血管と絡なり母体の血液より自己に不足なる酸素この外の元素を取り再び固有の性質ゟ復して「オンビリカール」胞ゟ入り前の如くして原種を養ひ以てろの成長を助け且つろれを完全からしむ然るゟ鳥類の卵ゟ至りては素より「シヨリヨン」を備へざれバ原種の成長そる作動は少しく右と異なりたる所わり其は鳥卵の血液一たび原種の腹内ゟ入れバ

適要なる元素を取りて濁血となり靜脈を經て「アラントイード」胞ゟ入る時卵殻の氣孔を通して茲に充滿そる空氣ゟ觸れて忽ち其の酸素と混和し再び固有の性質を得て精血となり他の脈管を經歷りて原種を養ふを以てなり○凡て動物の原種はいづれも前の如くして成長し身体を完全くそるものなればだん〳〵成長そるゟ隨ひ各々己れゟ入用なる滋養物（即ち血液）を取る分量の次第ゟ增加せざる得ぜろれゟ連れて卵の蛋黄は次第ゟ殘り少なくなり竟ゟ全くろの痕を留めざるにいたる時を授生發動の期と云ふ即ち鳥魚蝶虫れよび爬行物の類い其の原種体質ともゟ完

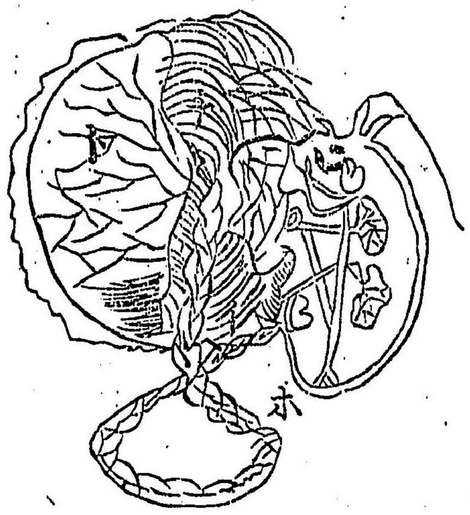
全して卵殻を破り世の中に現れ出るの時なり是より先き蛋黄膜（透明膜）は既よ空虚となり原種の腹内に入りて是れが消化機關となる○右に説く所よつきて鳥魚蟲虫爬行物の類がろの原種の發生より現世に産れ出るまでの作妙順序のあらましを知るに足るべし扨て右鳥魚以下の物い授生發動の期いたり卵殻を破ぶりて産れ出る時い既にれの〳〵形体性質とも完く備いりて缺る所なしといへども獣類は是と異なり仮令授生發動の期來りて卵の蛋黄全く痕を失なふにいたるもたゞ其の名稱を改めて胚胎となるのみにして尚ほ母の胎内に留まり身体の全く備いるを待てのち産れ出づされど此の期より胚胎は漿膜をもて全体を包み「アラントイード」胞より出づる數條の細き管を母体の血脈と聯絡し其の血液を吸ひ取り已れに要用なる元素を得て營養をなすものと知るべし

○第十七條「プラサンタール」

前條の如く卵の蛋黄全く闕乏する期にいたらば獣類の胚胎い那處より必要の滋養物を得てろの生命を繋ぎ得るやと疑ひ問ふ人もあるべし然れども造化の靈妙全能なる豈に是が准備をなさゞしてとあるべきや今其を委細しく云いんに胚胎が授生發動の

期より先だちて「プラサンタール」（胞衣根と譯す或ひ又た原語を「アリエー、フェー」と云ふ）と云へる物を生ず母体の血液より胚胎に必用なる元素を取りてこれに與へ之の成長を全くせしむ抑も「プラサンタール」なるもの〻創始は即ち「シヨリヨン」膜（胞衣と譯す其の作用は胚胎を包みて非常の際ひ之が楯となる）の外面に群がり後漸やくよ集合し化して茸の如き形狀となり次第に子宮

第十圖



の内面に張り出だし蛋黄の缺乏する日にいたれバ既に子宮腔の血管小胞体と連絡して胚胎の生長を助くるものなり今此の「プラサンタール」の体質を見るよ數多の纖管細胞体の攅りたるものにて然かも其の上端なる子宮の内面よ接きたる部分ひ悪く細胞体のみにして其狀恰かも海綿に似たり扨て又た此處より両部に分れ一つひ「アラントイード」胞の細胞体と絡なりて胚胎の血液を吸ひ取り他の一部よ流通すれバ其部の細胞体ば數條の纖管（此の纖管ひ草木の微根に等しく非常の吸引力あるものなり）よりて子宮腔の血脈と相連なり母体の血液より胚胎よ必要なる元

素を取りて「アラントイード」胞より輸り來る胚胎の濁血と調和し再び舊の精血となりて臍帶の動脈に流通そ○臍帶は右の第十圖に示そが如く動脈（イ）と二條の靜脈（ロ）とよりて成り其の動脈よりは胚胎より精血を送り靜脈よりは胚胎へ濁血を流し出さしめて「アラントイード」胞に輸る軟弱き靭帶なり

世人久しく胚胎ゐ母体と血液を交換て相通ずるものと思ひたるに近來にいたり諸學士の實檢によりて漸やく「プラサンタール」と母体の血脈との間に膈膜あるを發見せしより前の言の非なるを曉りて竟に其説を廢絶せり○今試みよ

胚胎か左なくバ卵殻よりまだ產れ出でぬ雛鳥の血液を絞りて顯微鏡にて照し見なば其の分子の圓体なるを發見そべし然るに壯年に達びたる獸類の血液は其の分子圓体ならをして必らを擔圓体なるものなれバ此の一事を以て母子の互ひに血液を相通はせざるを知るべき證據をなそべし且つ血液の分子の圓体なるは最も下等の動物に多くあるものなり○總て胚胎の下部半体にて動靜兩脈の血液の混和するゐ常の事なり蓋し左右の心臟の耳相連なりて「ボタール」口より迭ひに血液を通はし交換るが故よよれり扨て誕兒呼吸を始むれバ直ちに「ボタール」口閉塞りて左右

の心耳も血液の交換を斷つ理合なれども偶々機關の工合或ハ其他の事故ありて分娩の後ち尚ほ誕兒の心耳にて血液の流通を止めざれバ其兒の遍〇水藍色をなし多くハ產れ落るの後暫時にして死するものなり假令僥倖にして一時死を遁がるゝとも果して三年とハ保ち難し是を世よ藍病と云ふ小兒の最も怖るべき病なり

〇第十八條　懷胎の初月より產月にいたるの間胚胎の生長する順序を論す

初月

人類の胚胎ハ懷妊せし初月の末にいたれバ漸やく密峰ぼの大さとなり大凡二「サンチメートル」（六分六厘）の丈となる此月より既に頭と胴との區別定まれども其ハ唯休中に絞れたる部分あるを見るのみ手足は終かに胴の四隅に小疣の如きものを萌み腹內ハ未だ定全からずして肚腹には尙ほ掩ふべき皮膚さへあらず全身は臍帶を以て「アンニョチック」胞と連なり其樣恰かも「アンニョ」汁の中よ泳ぎ漂ふものゝ如し

二月目

三十日より六十日にいたる間に人卵の大さ前月の二倍となり周回諸部の包膜次第に縮み寄るよ隨ひ「シュリヨン」膜

（胞衣）の外面に着きたる細胞体も漸やく一つゝ集まりて共に一体となる是より先き「アンニヨナツツ」胞います〳〵脹れて其嵩い前月よ二陪し一又た胚胎は腕と脚とを生ずれども指と趾とい未だ出さゞ

三月目

二月目の末より此月の終よいたる間よ胚胎の諸部あらまし具はり男女の別（即ち睾丸と卵巣）も始めて判然と分るべし又た手足に指趾を生やし面部よ眼と口とを着く

四月目

此月にいたれバ人卵殊のほか育ちて非常の大さとなれゞも胚胎い却て五月目より先の如く速やかに成長せざされども最はや十二「サンチメートル」より十五「サンチメートル」（四寸より四寸七八分）の身丈ありて少こしづゝ動きはドむるなり是より先き「アンニヨナツツ」胞の液汁いまゝ〳〵増加して包膜を脹らまし夫につれて人卵諸部の包膜い次第に一つよ連なりて就れを就れと分き難きにいたる此時「シヨリヨン」膜に「プラサンタール」を生ゞ同時に子宮の内面に乳房の如きもの出來て「プラサンタール」と一つになり竟に茸の如き形ちとなる

五月目

此月より「プラサンター」の作用をはじむされバ胚胎い母体の血液より己れの滋養物を取りて生活を助くるゆゑに其の成長の度も至て速やかにて九月よいたる間に諸部の機關全く備いりて少しも缺る所なしされども胚胎は決して物を喰ふと無くたゞ臍帶より血液を流通して其の滋養を補なふのみ現に誕兒の産れ落ちし時堅く口を結び居るを見ても知るべし又た此月よりド頭よ細き毛髪をはやそ

八月目

此月は胚胎の容体ならびよ其の諸部の機關とも左のみ五

月目に異なると無く又た九月目に比ぶるも格段の變りを見ず唯母の陰滯にい大いに平日と差ひたる摸樣をあらいすべし

九月目

此月は懷胎の滿期なれバ胚胎の諸部機關とも完く整ひ其の体丈四十「サンチメートル」より四十八「サンチメートル」（一尺三寸より一尺四寸餘）其の体量四「キログランム」より五「キログランム」にいたる但し体丈、体量とも此上に出るもの い蓋し鮮なし扨て身体は此の如く全く備はるといへども智慧い未だ少しも無し

○第十九條　分娩の事

女子の強健にして既に懐胎に相應なる年齢に達りしもの大凡九月目の終りに産の紐解くを通例とそこの時胎内の兒は既に充分に成長して出産の期を待つものなり扨て「アンニヨナックノ」胞は懐胎の始めより爰にいたりて内部の液汁次第に増加し次第に膨脹して出産の時に近づけバ胚胎を包み、みたる膜を押し子宮を共に押廣げて漸やく固有の形体を變せしむ然るよ子宮の繊緯い次第に彈力を増し胚胎の包膜を壓つけてろの破裂そるを防ぐといへども「アンニヨナックノ」胞の液汁まそ〳〵増しろの暴發力いよ〳〵加

わりて既に分娩の期にいたれば右の如く嚴しく子宮を押平らめ陰溝を合せて殆ど圓き形となそこれに依りて子宮の頸口大いに廣がり今い胞胎の包膜の一部を外部より壓つくるもの無なる時忽ち其處より破裂して中なる孩子を押出だす孩子の外に出るが否や包膜い直ちよ縮み上り子宮も共よ口を閉づこれ等の工合は総て護謨の裝置に異ならずO此時胎兒が頭を子宮の口に臨まそるい順道の平産なりといへども時としてい両足を揃へて先づ外に出すものありされど是い猶は害なしとそ唯胎兒の横に倒れて片手を出すか或い片足を出すものい餘ほど手馴れたる産婆

の助けか功者なる産科醫の術を借るにあらざれバ身二つとなすと最も難し

総て婦人が産の蓐に臨む時ハ堪忍を專らとし決して氣を苛ち偏急る等のとあるべからざれバ天然に任せ置きて胎兒の誕れ出るを待つを眞しとそ傍の介錯人も好く心ろして起居までも靜穩にし物騒がしき下婢なぞハ必らず産室の邊りへも寄せつくべからざれ但し是ハ平産の時なり万一前の如き難産なりと見る時ハ手早く身二つとなその用意をなすべし若しこの用意を怠りて徒らに時を移すときハ母の子宮次第に縮まりて誕兒の身にまとひ附き出すとも入るゝともなり難きまでにいたれバ器械をもて子宮を押廣げ兒の体を引出さんとするも叶はざして如何なる手術も施こし難きにいたるべし故に兼てより介添ハ此人を選らみて其場に臨みて不都合の無き様ゟ取計らはするとも肝要なり折角呼び來りし醫者さまに最はや手後れなり詮方なしと云はせ玉ふな

時としてハ出産の徴候あれども容易に誕れず母親の苦痛甚しくして見るに忍びざる事のあり箇様の時ハ先づ胎兒の体位ハ如何やうなるべきかを知る事肝要なり蓋し胎兒の体位よりて取扱ひの方もまたさま〴〵なれバなりされバ

是を探り知るとい通常の人の出來がたき所なれバ唯功者なる産婆に指を子宮に差入れさせ指の端に當る工合を考へて兒の頭か手足か或ひい胴かを鑑定さそるのみ此時若し胎兒横に倒れて子宮口に脊を臨ませなバ器械をもて子宮を押廣げ頭より徐かに引出すべし故に是いなは苦しからぜたゝ胎兒が海蝦の如く体を彎げて頭と足とを一つにして子宮よ臨みろの両傍の肉に挟まれて身体の自由を得ぬ如きい極めて難産よ陥いるべし其故は若し兒の両足を探りてこれを先に引出さんとすれバ頭を損ぜるの患ひあり又た頭を先よして引出さんとそるも両足これが障碍となりて両方ながら施こすとを得ざれバなり故に此の如き時い器械をもて産み落さそるか或は熟練たる産婆の手をかりて産婦の腰を按み摩り胎兒を通常の位置に復へし更らに又た出産の期いたるを待て兒の脊節を押撓め身体を球の如くなーて後器械を用ひ子宮を押廣げて産み落さそるの外に好き手段あると無し○胎兒誕生せバ落刃の小刀をもて臍帶を斷切り「プラサンタ」降るにいたれば是よて全く懐妊の役を終るものとそ扱てこの臍帶を切るに大切の心得ありろの心得なくして漫りに切り放つ時は不測の變を生ぜべし其い別義にあらぜ臍帶の上下二ヶ所を堅く

結びて其の中間を斷ち切ることなり蓋し臍帶は前にも說盡したる如く動靜兩脈によりて成るものなれば斯く二ヶ所を堅く結びて血液の流動を停めたる後ならでは其術を施し難きものなればなりこれ心得の第一なり

世に多くある產婆の中には身二つとなりし後直ちに產婦の肚腹および腰圍を按み摩るものなきにあらず其故を問へば腹內の機關を速やかに舊の如くし各々固有の位置に復へさしむる爲めなりと云ふ是れ大いなる誤謬りにて最も怖るべき不注意と云ふべし其の故は惣ドて產婦の身二つとなりしほどは一時范然として暫らくは人事を省らず

甚だしく落氣して身体の疲勞大かたならず殊に生殖機關の衰弱するは中〳〵一通りならぬことなれば如何なる手術を用ゆればとて兎ても劇かに舊の如く固有の本位に復へすべきやうもあらざるに斯く外部より激しく按み摩る如きことあれば聊かの利益なきのみかは却て其の疲勞を增して甚だしきは不測の病根を來たすもの無きにあらず從來の產婦が斯る怖ろしき取扱ひを受けて危難を免がれしは實に布代の僥倖とも云ふべきなりされど中には產後に肥立ちかぬるなどのものあるは又た幾分かこの禍害を受けたるなるべし呉〳〵も恐れ愼むべきことにこそ

○第二十條　双兒あるひハ三兒を産むを論ず

本書の首めより前條にいたるまで説き出せし所の主意ハ唯卵種の成熟して化して胚胎となり期滿ちて産れ出る理由と順序とを述べたるまでよて未だ卵巣より落ち下る卵數のことよ云ひ及ぼさゞ故に今條をあらためて其事を説き明そべし大凡卵巣より月々よ落す卵種ハ右と左と交番よて一個或ひハ數個を放下し其數に定まりあると無し此時腰間よ疼痛を發し血液と粘汁とを下だす是を月經と名づけ大抵強壯なる婦人よは四七日ごとよ一度づゝあるものなり夫より卵種ハ喇叭管を經て子宮に入り脫落膜に留り

て一回よ二個の卵種二頭の精虫と感和すれバ双胎となり三個の卵種三頭の精虫と感和すれバ三兒となる四兒を孕み五兒を産むも皆なこの理合に外ならざ然ろよ或る人の説よては卵巣より放下する卵種の數は毎月一個を通例とす双胎三兒を懐胎するハ其の婦人の生殖機關よ異狀あるを以てなり其故ハ素と人間の子宮ハ一個の卵種を養ふにのみ適當なれバ双胎三兒を孕む時は必らず胎内を損傷して機關に異狀をあらはさゞるを得ざ世よ此の如き胚胎の成長充分ならざして誕兒の身体完全からず夭折する多きものは全く此の故に因らざるべからずと云へりされども

質地よつきて世間を見るに右の説の如くならぬも尠なからねば是又た一概に信を措て果して其言の如しとも云ひ難し○然るに又た一個の卵種より二個の原種を有つ一種奇怪の部類あり凡て此の如き卵種は僥倖にして善がなく成熟を遂ぐるも既に胚胎となりて諸部の機關漸やく發生そるの期いたれば必らず二個の胚胎一つとなりて躰を合せ奇々妙々なる怪物を現ハすべし即ち一躰双頭或ひハ両体一頭の如き是れなり

予が近ごろ傳聞する所に據れば佛國の都府馬耳塞に一体にして双頭あり両臂両脚を具へたる一種奇怪の人あ

りて現に尚は生存するよし然るにこの怪物は素と両原種の混合せしものなれば各頭ろの精神を異にし時としては其意叶はず右頭左方へ往かんとすれば左頭ハ右方に赴かんとし果ては互ひよ罵り合ひて相爭ふこともありと云へり若し此の咄しをして實事ならしめば世に一卵よして両原種を有てる異種あるの明証とするよ足るべし

近ごろ讀賣新聞第八百六十六号雑報欄内よ前の咄しと類似りたる一奇報を福岡新聞より抜萃して掲けたり左よ登錄して本條の一例よ供ふべし曰く福岡新聞に先月

五日同縣下に産れたる赤兒は死体にて頭も顔も二つあり胴は一体よて臍も一つ手は二本ありて足は四本なり就れも女子にして胞衣はたゝ一つなりと餘り不思儀なる物なれバ醫師より解剖いたし度き旨脇廳へ願ひ出でたるよしと

双胚未た胎内よりて互ひの腹内全く備はらざ肚腹なは皮膚をもて掩はれざる前よ一胎の身体崩るゝとあれバ其の一分は他の胚胎の腹内に雑り入れども其の胚胎は恙なく成長し期満ちて誕れ落ち数月若しくい数年間生のぶるともあり左に佛人「ブエルヌーイユ」氏の現よ見られし一

奇談を掲けて以て是を証すべし

千八百四年のころ佛國「ユール」州の僻陬に「ビッシュー」と云へる少年あり容貌すぐれて美いく身体の衆動より言語音律にいたるまで些しも常なみの人々と異ならざりしがたゝ幼稚きころより左の脇に腫物出來て折ふゝ痛痍を發すとありされど十三歳にいたるまでい倘ほ左したるとも無くて日やに學校へ通學し勉強も大かたなられバ歳よりい蠢もすゝみ未頼母しき少年なりとて郷の翁も愛はやせしよろの年の末より右の腫物劇かに激しく腫れ痛みて身体の熱氣はなはだしく死ぬばかりに

惱み若しみしが數日を經て腫物の口忽ち破れ惡き臭の鼻を突ぬくばかりなる腐敗物と共に數條かの毛髮を出だしたり夫より此の少年い身神恍惚として人事を覺へす殊の外に衰ろへ耗かれて牀に着ーまゝ枕も上がらそ憐むべー其翌る年十四歳の春を迎へて殘の雪の融くるも待たそ我れ先づ消ねて黄泉の人の數にそ加はりける其のちろの死体を解剖ーて腹内を檢査せしよ臟腑と脊節の間に腫朕ありて内に孩兒の遺骨れよび毛髮の類幾らともなくありーと云ふ是に依りて考ふるに此の少年の母なる人双胎を孕みたるが一胎い腹内にて溶解しろの一分此の少年の腹裡に雜り入りしも僥倖にして其まゝ成長し遂に産まれ出でたると判然なり

○第二十一條　異質愚鈍の兒を産むを論ず

凡て孩兒の創始より母の胎内にありて成長する事理に通曉かなる人い母子の疾病或い又た其他の因故によりて不具の兒を産み異質の子を擧る所以を推し究め會り得るものなれば必らそしも無根の妄説に迷ひて身を愼しまそ醜体を世間よ顯はして人の胡盧よなる等の擧動あるべからそこれ人の母たるものが第一に愼戒むべきとなりかー惣

ドて婦女子が懐妊の徴兆見ゆる時ハ自愛を專一ニし孰中食物に心を用ひてむさとしたる物を喰ふべからず殊に運動を程よくして万事に沈靜き起居歩行にも氣を注けて非常の激動を愼むべし若しこれらの事を心ニとめず喜怒恐悲（ヨロコビイカリオソレカナシミ）等の感動をはげしく身ニあつる時ハ胎内の兒は不具とならざれバ必らず痴呆に産るべし世ニ心配性の親の智慧ある兒を産む能はざるも全く右の感動を身にあつるよりのとゝ知るべしされバ昔しより敏才の譽れある人の子ニ聰明の兒すくなきも其の一の證据なり故に英敏なる良兒を産んとならバ第一ニ氣分悪しき時又たハ心配ある時など

の房事を愼しむと肝要なり

○第二十二條　子宮外に懐妊する所以を論ず

既ニ前條にも説きたる如く精虫ハ素と猛烈なる性質を備へたるものなれバ子宮ニ入りて卵種と出會はざるも決して其處ニ安閑と待者ならず頻りに進みて喇叭管に入りなほも進まんとするものなり故ニ卵種成熟して卵巣をはなれ喇叭管に落ち入りて其の溝道を轉り行く途中にて精虫と出遇ふ時ハ精虫たゞちに夫に食入り忽ち感化して生殖の事業を始むるなり此の折りたま〳〵不側の事變ありて此の卵種子宮ニ入ると能はざれバ此儘喇叭管の中途にあ

りて胚胎となるものなり或い又た卵種胞の破裂して成熟せる卵種を放下そる時精虫たま〳〵其處よ居りて直ぐに感和一歩を轉下て喇叭管へは入らざして却て肚腹に赴む き「プラサンター」の纖管細胞体をもて臓腑と連絡を通ト其の血液を吸ひ取りて此處よて生長し化一て胚胎となるとも あり凡て此類の懐胎を指して子宮外の懐妊と云ふ物ト て斯る場合よれいてい胎内の孩兒たとひ出産の期いたるといへども誕れ出づべき路の無ければ如何ともする能はざ母子の苦しみ譬ふるよ物もあらざるべーされど打棄て置かバ母子の命立どころよ終るべけれバ生死を天命と醫師の功拙よ任かして産婦の肚腹を斷ち割り截口より孩兒を引出だすか或い強激の藥劑を用ひて次第に療法を施こし孩兒の身体を溶解一て墮胎せーむるより外別に眞法のあると無し噫人間生殖の事業をなして人生無二の生命を過まつ造化の深意果して何の處にあるや予輩い窺ひ得ざるを苦しむのみ

○第二十三條　婦人の懐胎せざる所以を論ぜ

前條にいたりて既に卵種の成化よ缺くべからざる事理のあらましを記し畢りたれば是よりい又た端を改めて前と反對なる件を掲げ委しく論述そる所あらんとそ抑も生殖

の本原ゝ男女両性の生殖腺即ち卵巣、製精腺（睾丸）の外ならざるなり故ゑ此の両腺ゑして一個を缺く時ゝ忽ち子孫繁榮の道斷絶すべし扨て世に原種の發生を妨害しろの成長を障碍ふる事故若干ありといへどもいづれも両性の生殖腺或は其他の生殖器の損傷不具又ゝ疾病ゑ關はらざるものゝわらぜ

元來生殖機關の性質たる最も諸疾ゑ染み易くたとひ些少なる事變といへども忽ち感激して病を發す故に男女を云はぜ大凡中年ゑいたるものゝ如何はぜ強壯なる人と雖ぜも生殖機關無難にして些の中分なきものゝ極めて稀れな

り扨て又た女子ゝ卵巣の繊維餘りに強堅にして卵種胞の内部に卵種の在跡あらざるものあり或ゝ卵巣の包膜に脂物を生ドて日を累ぬるまゝに腫れ膨れて懐胎ゑまぎらはしく見ゆるものありされども一双のうちに一つの卵巣差支へなきものと又た男子がなくてある時ゝ生殖にゝ差支へなきものとぜ又た男子にゝ純粋の精液を有つもの極めて稀れにて十人の中八九人までゝ液中に水分多きか或ゝ不真の性質を備ふるものとぜ扨て精液斯く純粋ならざる時ゝ其中に生活する精虫もまた強健なると能はざれバたとひ卵種に出會するも此の如き精虫ゝ感化の能力をあらはし難く到底生殖に無用

のものとなるべきなり

總ドて餘り房事を貪ぼるの人ハ精液を漏らそと其量に過ぎて絶ゑず睾丸よて釀り出だすも其費やす所を補なふよ足らず元來睾丸にて造る精液ハ其量限りあるをもて斯く濫りに費やす時ハ竟には充分の成化にいたらずして外に泄らし猶ほろの甚だしきよ至れバ性質を變ぜるの暇なくて生血のまゝを迸しらするとあるべし是らの中にハ精虫の影だよもあると無し又た手淫の天理に悖りて造化の罪を得る所以ハ諸人の能く知る所なれども兎角に年壯の輩らハ發情のやるかたなきより其の不良の所爲たるを知りつゝ此の惡業に惑溺して我と我が慾をとゝむる能はざ竟にハ身体を損なひ頭腦を亂し果てハ沁經病、癲癇、痙攣等の難病を自から釀して一生を廢物になし終る者世よまた勘なしとせざるなり抑も人にして我身を愛せず草木と同ドく朽果つるも厭はドと云はゝ扨て止むべし尚しくも功業に心をかけて將來の富貴利達を希ねがふ丈夫ならバ一朝の慾よ終身の害を忘れて斯る淺猿しく臭陋しく丈夫氣なき擧動をそべくもあらざ世の年少子弟ハ此の一段をよく味ひて自から擇む所あるべきなり

總て此の如き弊害ある人の精液ハ純粹のものならぬが故

に絶ゑて強壯なる精虫を有つとなし尚は甚だしきは一頭の精虫だもあらざるものあり實に上帝の意思に悖り甘んで造化の罪人となり好んで子孫榮昌の基を絶つ思中の愚駭中の駭と評そるも此らの者は一句の返答だもなし得ざるべし幾ましと云ふも愚かなるとならぜや

幸ひにして兩性の生殖腺（卵巣、睾丸）無異安全なりといへども若し喇叭管或ひ子宮に損傷異變のとあるときは同く生殖に功なきものとそ扱て叭叭管に異變あれば其の端口窄く縮まりて長く伸びず卵巣に達してこれに接く能はざるとあり故に卵巣より卵種を下すもこれを受け納れて子宮に搬ぶと能はざるべし又た子宮にい時として內面に腫物を生ド痛く膨脹れ上りて兩傍の肉の相接くにいたることあり此時若し胚胎の此處にあれば其の膨脹の爲めに腫つけられ成長そる能はずして竟にい其處にて腐敗するものなりとす其の外喇叭管孔の閉塞り陰溝の損傷るなど種々の事變ありて一々數へ舉るに遑まあらざれども いづれも生殖には非常の禍害を與ふると知るべきなり故に歐州にて懷妊を好まざる婦人には間々激烈なる藥を用ひて自から卵巣を損傷め生殖の能を妨たぐるものあり然らざるも斯る不人情なる女い概ね月經より十四五日（脫落膜

の卵種と共よ消る失する候まで）の間は決ーて男子と交
いると無ー莖ー子宮よ留まり居る卵種の溶解ー去るを待
つて懐妊の大役を免がれんとする了簡よ出づるなるべー

○第二十四條　懐胎せしー婦人の容体を論ず

大凡定まりたる主ある婦人い月經の止るをもて懐胎の徴
兆とーて十に八九い誤ると無ーされど又た病のため月
液の滞こほるともあり或ひい懐妊そるも尚ほ二三が月は
月々經水の施り來たるともあれば一概に月水の有無をも
て懐胎と否とは定め難ーといへども婦人よーて兒をやど
す時い卵巣の營養よ備へたる血液い轉ドて醸乳器よ流れ

入るものなるを以て乳房い次第に膨れ出だし乳頭も堅く
なりて其色は日を經るまゝに栗殻の如き茶褐色よ變ぜる
なりしかのみならず子宮の血管細胞休も非常に肥へ脈れ
て原種を養ひ育つれば母体を循環そる血液の量も平常よ
りい增さざる得ざ失れに連れて飲食の量もまた平日より
は餘分に進まざるを得ぬ理合なれば夫らの事にて實に懐
妊せしや否らざるやを鑑定し得べー其の外よも頭領の肥
へ太り或は食物にも酸きものを嗜むなど種々の徴兆ある
ものなれども既よ百日前後にいたれば子宮次第に膨れ出
でゝ通常の形ちと大いに異なる樣をあらはせば夫をもて

判然と懐胎の實否をあきらめ得べしされども猶は婦人の心落着かぎして確かなる証據を求めんと思はゝ功者なる産婆か但しいさる筋に手馴れたる人を頼みて我が陰溝を探らせ子宮の口の閉塞り居るや否らざるやを檢査さそべし其故ゝ卵種精虫と感和して子宮よ滞まり胚胎の萌芽を啓けゞ子宮は直ちに口そ縮めて頓がて全く閉ぢ切るものなればなり此時若ー子宮の口猶ほ開きて平日に異ならぎは假令肚腹如何ほどに張り脹れて太鼓の如くにいたるとも必らず餘病の所爲なりと知るべし

○第二十五條　卵種胞および卵種の事

人間の卵巣を切り割きて其の内部を見れば自づから内部と外部との區別をなし外部は數多の細胞体充滿すれども内部はたゞ粘液を貯はへれきて外部の細胞体を育つるの用に供ふるものたるを發見すべし扨て此の細胞体を名づけて卵種胞と云ひ又た其の内部にある微かき顆を呼びて卵種と云ふ人間の卵種胞の數い一女子の持てる所ろ殆んど三万六千有餘の多數に及ぶと云へりされど此の如きい唯ゝ窮理家の推量に出でたるものにて必らずー筭定ーたるにあらざるや明らかなり

卵種胞は女子青年にいたり早や春情の萌ー來るころに及

べバ大よろ二「ミリメートル」十分の二（即ち三厘三毛の十分の二弱）の直徑となり次第に成熟するに隨ひ自づから沸き騰りて卵巢の周圍よ達するよいたれバ更らに二重の包膜を被むり内部に黄色なる汁を充たして卵種を浸たす此の時にれよべば卵種の大さ殆んど二「ミリメートル」十分の一の直徑あるものなりまた然よ破裂して卵種を落し同時よ縮み上りて凹の狀となり凹底にて蛋黄を醸り出だす

○第二十六條　精液の成分

前の數條よて既よ精虫の能力の靈妙なるを說き盡したれバ讀者い充分よ了解せられしならん今本條にれいては其精虫を生育そる精液の成分を揚げて原質の如何を論せんとそ抑も睾丸にて醸り出だす精液の大体を分別すれバ薄黄色の粘液と灰白色の微球と活潑なる微虫との三つよて此の微虫い即ち前に云へる精虫なり又た灰白色の微球と云へるは即ち精虫の卵と知るべし扨て此の薄黄色の粘液い即ち純粹なる精液にして大氣よ曝らす時い忽ち溶解して水の如くなるものなり或る舍密家この精液を分折して其の成分を檢査せしに水と青酸と曹達と其餘よ燐酸石炭あるを發見したりとそ

○第二十七條　釀乳器および乳汁の事

婦人懷胎すれバ是まで卵巢を營養せし血液ハ忽ち卵種を養なふことを止めて釀乳器に入るよしハ既に前條にて說き出せり扨て此の血液が釀乳器へ入るを以て乳房はたちまち大いに膨脹れて殆んど平常の嵩に倍し內部にて白色の甘き汁を釀り成す是れ即ち乳汁にして誕兒を養なひ育つるに缺くべからざる養汁なり今本條にて此の養汁の成分を記るしいさゝか世の親たる人の心得に供ふべし扨て其の乳汁を分折して檢出し得たる成分ハ水八十八分にして乳砂糖三分半ありて乳酪二分に乳油四分と十分の七を含み

て其の餘は皆な蛋の類なり（是れハ乳汁の物体を百と定め其の百を割りて計へしものなり）故よ幼けなき兒には餘り蛋味あるもの幷びに餘り甘過ぎるもの等を與ふ可からず蛋鹹きものハ骨節を固くなし（蓋し身体の成長に害あり）砂糖ハ胃腑を損ど易きものなればなり

○第二十八條　獸類各種の懷胎の期日を論ず

凡ての獸類ハ其の生殖機關をもて論ずるときハ人間と左ばかりの異別なる所をも見出だし得ざれども懷胎の期日と胚胎の數とよいたりてハ甚に人間と異なるのみにあらずして各々の種族に隨ひ挌段の異同あるものなりされば

於鼠の如き僅かに三周間の懐妊にして子鼠を産み出だせども山兎の如きも四周間を經ざれば分娩の期にいたらず倘ほ猫の八周間の日月を費やし犬幷びに狐の類ひ九周間の久しきを待つ熊は更らに長くして三十周間牝牛の如き四十一周間駱駝ひ四十五周間よりて稍〻一年の長きよいたりては一百周間ならざれば誕み出だす能はずして胎子の胎内にとゞまると殆んど二年の久しきに亘たれり斯く分娩の期に落るき遅庭われども一旦胎子を産み落せしのちいづれも乳汁をもて幼稚きものを育み養なふと更らに人間よ異なる所なし又た爰に

よ原名を「マルスピヨー」と云へる一種の奇獣あり此の獣ろの形ちは恰かも狐の如くよして丈けゞ最も長く其の肚腹に皮のたるみたる如き肉囊ありて子を産み落すが否や直ちに此の囊よ入れろの儘餌を求獵り歩るきて往く所ごとに我が子を携さふ斯くて其の子乳離れの時よいたれば彼の囊より放ち出だして其の好む方に往き去らしむ實よ造化の器具匠にひ何やうの好器械ありて斯ろ器物を造り出だすか無盡藏の妙巧くよ堪へたり

○第二十九條　脊節なき動物の論

凡て脊節なき動物は其の種族によりて生殖の方法各々相

等しからぞ譬へバ蝶類の如き卵生種族は雌雄交合なさゞれバ絶ゑて生殖すること無し又た「ブエール」（臓腑ある虫）は大概是と同ド生殖方なれど凡て臓腑なき虫の類即ち蚯蚓蛤蝓の如き種族は一体に雌雄両性の具を共有するものなれバ其の生殖方もまた更らに一定の法あること無し

○第三十條　植虫の部

海膽海綿珊瑚などの如き海草に類似りて然かも動物の体あるものを概べて植虫と名づく凡て博物學において此の種類の欄内に列らぬるものは其の生殖方數多にして逐一枚擧するに遑あらざれども大概は虫の身躰より枝躰を生

ド是より又た枝体を出だして竟には植物の枝葉の繁茂する如く一体より連々數年の枝体を群がり生ぜるを通例なりとす然るに尚ほ其原に遡りて考究すれば此の枝体は實に此の植虫の子孫なること疑がふべからぞ又た此の種類の最も下等なる属にいたりては己れの身体を分ち裂きて若干の同族を○やすものあり噫造化の靈妙豈に是に止まりて盡るものならんや實に人智の能く測り知るべき所にあらざるなり

明治十一年五月廿一日版權免許
同　十二年二月十一日出版

定價六拾錢

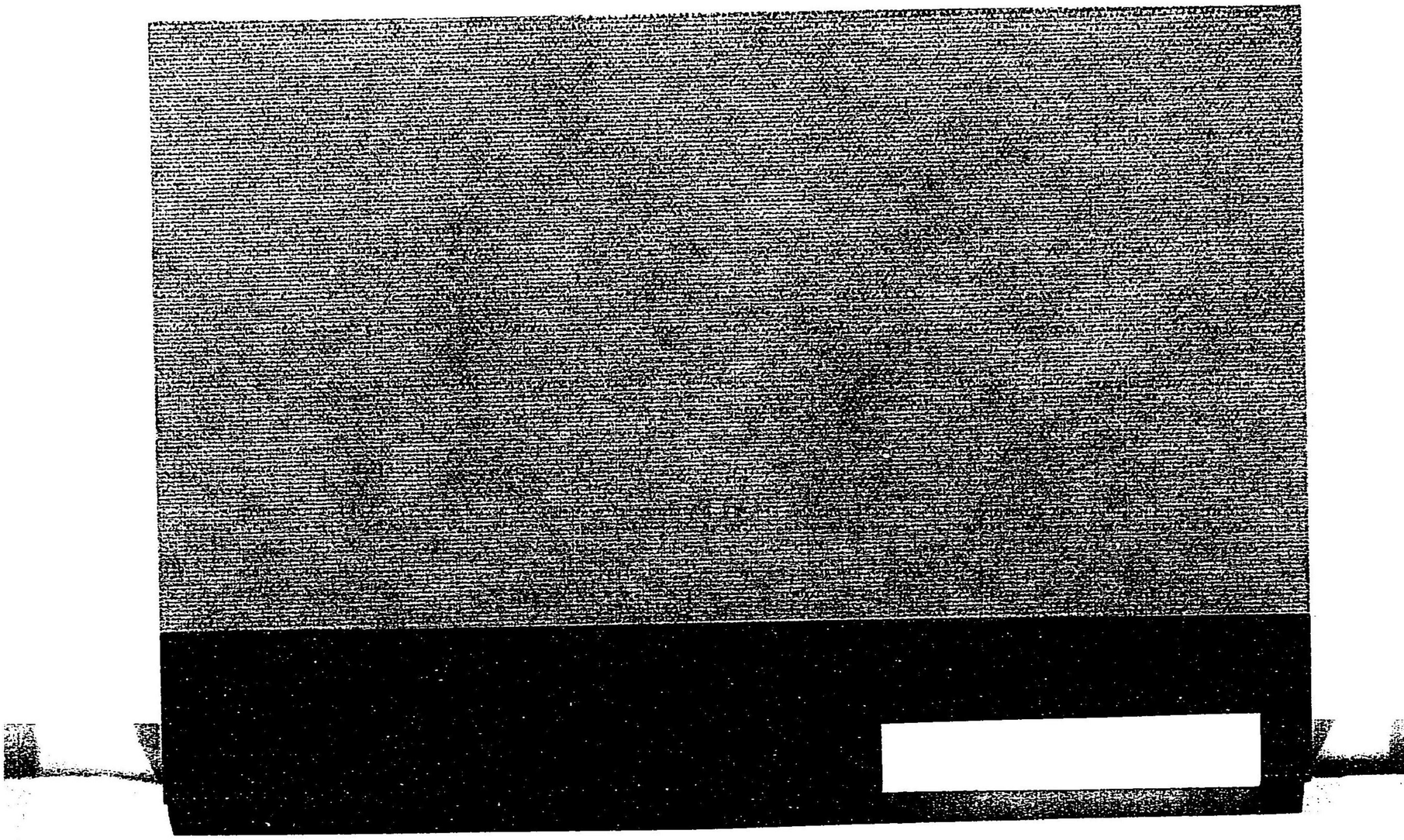
筆記幷翻譯人　宮城縣士族　本多省三
　　京橋區西紺屋町五番地寄留

出版人　東京府下書籍問屋　穴山篤太郎
　　同區南傳馬町二丁目十三番地

印刷　活版所　同文社
　　神田區南乘物町十四番地

弘通書林

東京　北畠茂兵衛
同　稲田佐兵衛
同　丸家善七
同　山中市兵衛
同　江島喜兵衛
同　吉川半七
同　村上勘兵衛
大坂　柳原喜兵衛
同　前川源七郎
西京　片野東四郎
名古屋　玉井忠造
岐阜　佐藤俊平
静岡　阿部準輔
山口



特25
573

造化生殖論

国立国会図書館

057093-000-8

特25-573

通俗造化生殖論

マイヨー/述

M12

CAP-0145